

埼玉佛教

平成27年1月 第201号

平成27年1月5日 発行

No.201

〒330-0063

さいたま市浦和区高砂4-13-18

一般財団法人 埼玉県佛教会

電話 (048) 861-2138

FAX (048) 864-6649

発行人 萩野 映明

http://saibutu.net

印刷所 関東図書株式会社



記念講演「仏飯を頂く一頂きます・ご馳走さまの作法と心」小山典勇師

平成26年10月17日（金）・寄居町中央公民館

目次	
新年のあいさつ	2
奉詠大会反省会	2
第36回埼玉県佛教徒大会	3
地区仏教会だより	3
・吉川市仏教会	5
・東松山・滑川仏教会	6
・川越市佛教会	7
トビックス	7
「埼玉連」研修旅行	7
「埼玉同宗連」	7
・第40回研修会	9
・第12回人権政策フォーラム	9
・第15回知事要請行動	9
・狭山事件の再審を求める市民集会	10
「解放同盟」	10
・第34回埼玉県研究集会	10
埼玉講話	11
全仏だより	12
「埼玉青」40周年記念事業【予告】	13
年賀名刺広告	14
受章報告	15
「埼玉保」幼児画展【予告】	15
埼玉佛教文化講座のお知らせ	15
訃報	16
事務局日誌	16
今後の予定	16
編集後記	16



一般財団法人埼玉県佛教会

会長 萩野 映明



希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、記録的豪雨が広島県に土砂災害をもたらした。これら未曾有の大災害の犠牲になられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、このような大災害が起こらないことを、切に願うものです。

新年の始まりは新鮮な気持ちを持って発心し、新しい物事に取り組む好機でもあります。この時忘れてはならないのが「初心」です。かの道元禅師は「発

心正しからざれば万行空しく施す」と、まず最初の踏み出しの姿勢を正せとの教えを残しました。自身のやる気や、求める心が何に向かって、どのように志を立てるかがしつかりしていないと、気持ちがあふれたり何も得ずただ時間だけが虚しく流れていくものです。この初心という

ものはとても肝心なものです。しかし、その発心も一度起こせばよいというものではありません。道元禅師が「一発菩提心を百千万発するなり」との教えを伝えたように、今日も明日も常に発心し、退転せんとする心を奮い立たせ、横に逸れようとする心を軌道修正しながら続けていくことで初めて道は成就されるのです。私たちの新鮮な気持ちや発心は、年月が経つほどに勢いが次第に衰え、惰性に流れがちです。それ故、その新鮮な気持ちや初発心を常日頃持ち続け、惰性に流れようと自分の姿勢を立て直し歩み続けることが大切なのです。

今年一年、健やかに、心穏やかに過ごしたいことを心からお祈り申し上げます。



「奉詠大会反省会」

10月27日(月)、埼玉会館において、9月11日(木)に開催された「第66回埼玉県各流讃佛歌奉詠大会」の反省会が開催された。教化委員や参加支部・講の方々から活発な意見交換がなされた。

次回から、90歳を超える講員さんが登壇される際には、他の講員さんの模範や励みになるので紹介する事が決まった。その他、大会運営に関わることにしても多くのご意見やご要望が出されたので、今後開催される各会議で協議し、来年度の奉詠大会がより充実した大会になるよう反映していくことが確認された。

【平成26年度 宗教法人研修会】 13:30~16:00

- (1) 埼玉県宗教連盟の概要等について (10分)
- (2) 埼玉県における基本的な事務手続きについて (45分)
- (3) 浦和税務署による税務の基礎知識 (60分)

- 平成27年2月5日(木) さいたま会場 埼玉会館・1階
- 平成27年2月6日(金) 川越会場 川越西文化会館

第36回埼玉県佛教徒大会

◆平成26年10月17日(金)、寄居町中央公民館大ホールにおいて、第36回埼玉県佛教徒大会が北部地区仏教会が後援となり、寄居・花園・川本地区仏教会の主管によって開催された。当日は、穏やかな晴天に恵まれた。

《開会行事》

13時開会。まず萩野映明会長を導師に記念法楽を厳修、来場



《記念講演》

『仏飯を頂く』

「頂きます。ご馳走さまの作法と心」

記念講演の講師は、寄居・花園・川本地区仏教会会長で本会代議員の小山典勇師。開催の地、寄居町にある真言宗智山派の常光寺の住職を務める傍ら、大正大学仏教学部で教鞭をとる。また川崎大師教学研究所の教授として、活躍されている。

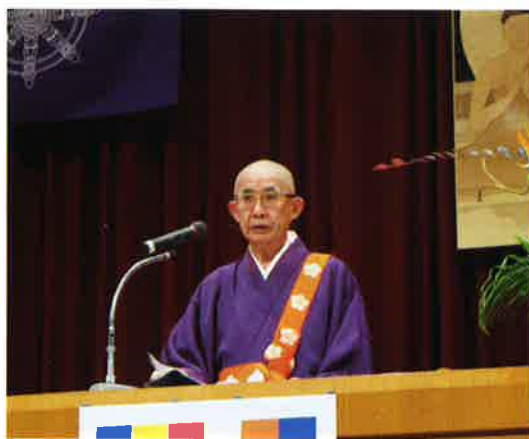
以下、講演内容一部抜粋―

今、壇上から皆さまの顔を拝見しますと、キラキラと眼差しが輝いています。何かを学んでみようという意欲をもって、好奇心をもって参加することの素晴らしさに感動しています。

今日は食べ物の話ですから岩波新書から出版された『エビと日本人』という本をご紹介します。『エビと日本人』は、



エビが大好きな日本人の話です。かつてイセエビは伊勢などの産地にだけ行かなければ食べられませんでした。クルマエビの例ですが、冷凍技術や流通機構の発達で近くのお店に行けば買える時代となり、便利になるとどんどん食べるようになりました。その頃、ブラックタイガーと名札があるエビを見て、ブラックタイガー、黒いトラ、見た目は黒くても茹でてしまえば、そこにあるのは見慣れた真っ赤なエビでした。それまで、そのエビは東南アジアの人々が食べている日常の食材です。と



ところが、国内では天然ものは限られ、養殖のエビでも需要に対応できなくなると、商社は東南アジアの産地に買出しに出かけます。日本からの注文が入り始めのころは、自分たちが食べていた余りを日本に輸出すればよかったのですが、エビの需要が急増し、発注が急増します。すると、現地の人々はエビの養殖を始め、そのためにマングローブの樹海を田畑を作るように開墾を始めます。大きな畑を持っている人は財産が増え、小さな畑の持ち主と貧富の差を生み出

し、人間関係もおかしなものにしてしまう。さらにエビの注文が続くと、エビの成長を速めるために栄養剤たっぷりの人口餌を撒きます。その結果、海洋汚染が進み、マングローブの樹林が浸食されていく。日本人がエビを食べ続ける結果として自然破壊、貧富の格差、社会的なゆがみを生み出してしまった、と言う話です。

私たちが日ごろ、食べている食べ物、様々な問題を生み出すという事実を忘れてはならないと存じます。

曹洞宗の道元禪師は『赴粥飯法』という食事の作法を著し、臨済宗の栄西禪師は中国から茶の種を携えて帰り、日本の茶の始祖として記した『喫茶養生記』には、お茶の効能が説かれています。私たちは食事の作法として受け継いでいるのです。道元禪師は、その書の冒頭に「仏の教えが自身に備わったならば、

仏として食事の作法が行われているはずであるし、食事作法が正しく行ぜられるならば、仏の教えが自身に備わる」と記し、仏法を学ぶことと食事を頂くことは等しい、と教えています。

結びに「満腹」とは人一倍食べたいという欲求から生まれるものです。それは心の問題として「満足」に置き換えると、腹いっぱい食わなくても心は落ち着くものです。

また、「腹八分」は、二分を祈りの心で仏さまに供えようと、満腹から腹八分に納まるのです。その二分を他の人へおすそ分けすることによって、人と人とのつながり、心が通いあう祈りの地域社会を創出していくことになるのです。

ご家庭では、合掌し「いただきます」「ごちそうさまでした」を唱え、感謝と祈りの心が身に着くようご精進を祈念いたします。

《記念公演・雅楽と舞》

記念講演では、浄土宗大本山増上寺雅楽会による雅楽の演奏と舞楽が行われた。開幕と同時に「越天楽」が演奏された。

次の演奏の前にまず、増上寺雅楽会設立の背景が説明された。「多くの方々は「どうしてお寺で雅楽演奏なのか」と疑問に思うのではないかと思います。元々、雅楽は仏教伝来と共に日



本に伝えられたこともあり「お寺・仏教・雅楽」は切っても切れない間柄。現在は神社で奏されることが多いが、雅楽は仏教と深く関わってきた。増上寺開山以来、浄土宗では徳川將軍家のご法要が厳修される都度に京都、宮中から雅楽奏者を招いて



いたが、それでは毎回大変であろうということから昭和14年に増上寺雅楽会が設立された。設立以来、法然上人の御忌会や徳川家のご法要においては必ず増上寺雅楽会が演奏している』
次に「管弦」の説明ならびに雅楽を構成する楽器の説明。お



よび奏でられる音が紹介された。

『西洋からオーケストラが入ってきた当初からオーケストラと呼んでいたわけではなく、管弦楽と呼んでいました。管弦とは雅楽由来の言葉です。管方が篳篥、笙、笛の三管が後列に控え、前列に琵琶、箏、鉦鼓、鞀鼓、太鼓を併せて管弦を構成。笙は鳳凰が羽根を休ませている姿にしている事から別名「鳳笙」とも呼ばれる。息を吸っても、吐いても同じ音が出るところから笙を目にしたドイツ人が自国に持ち帰りハーモニカやパイプオル

ガンができたとも言われている』
実際に奏でられると、会場が透明感のある優美な空間に包まれた。

管弦の曲目は、「越天楽」、「陪臚」の奏楽に続いて「嘉辰」が朗詠された。最後の舞楽の部では「陵王」が演じられた。

閉



最後に司会の眞島亮悟師（本会理事）から義援福祉募金の途中報告が行われ、また本大会が盛会裡に開催できたことの謝辞が述べられ幕を閉じた。

県佛大会義援福祉募金報告

大会当日、参加の皆さまからお預かりした義援福祉募金の合計金額は、271,013円に なった。募金は社会福祉に役立てていただくため、寄居町社会福祉協議会に全額寄託された。

「県佛大会反省会」

平成26年11月18日(火)、寄居町に於いて、県佛大会反省会が開催された。

まず、小山典勇会長から県佛大会が滞りなく開催された事について謝辞が述べられた。続いて、事務局長の吉岡貞典師から会計報告がなされた。前会長の鹿島正樹師からは、若い世代の人達に協力してもらえた事で次世代に受け継いでもらえるような形が整った有意義な大会だったとの談話も寄せられた。

地区仏教会だより

「平成26年度

吉川市仏教会研修会」

平成26年11月4日(水)、吉川市仏教会（細沼秀行会長・豊



山)は「平成26年度吉川市仏教会研修会」を開催しました。この研修会は、宗派にとらわれず、広い視野と心で手を携えあい、共に頑張っていこうというテーマで毎年実施しており、今年も寺庭婦人を含む14名で、飯能市の能仁寺(住職・萩野会長)と埼玉会館を研修地として訪問しました。

一行は先ず、能仁寺を参拝。萩野会長から伽藍復興の歴史的背景についての説明を聞きながら、諸堂を見学いたしました。

本堂裏側から眺める庭園は、ここが埼玉である事を忘れさせるほど素晴らしいもので感動いたしました。続いて萩野会長からかつて在籍していた報知新聞における巨人軍番記者時代のエピソードから『心』について、今日我々が忘れかけている相手に思いやる気持ちや、優しさに触れながら30分にわたるお話を拝聴しました。

能仁寺を後にし、昼食をはさんで埼玉会館を訪問。1階の多目的ホールで会館建設時の記念DVDを視聴後、事務局の案内で会館運営方法や活用状況の説明を受けながら会館を見学しました。(吉川市仏教会事務局)

「第20回仏教講演会」

東松山・滑川仏教会

第20回を数える東松山・滑川仏教会主催「仏教講演会」が平

成26年11月15日、東松山市民文化センターを会場に開催され800名の仏教徒が集まった。

開会式では中嶋栄会長を導師として加盟各宗派の代表が登壇し、担当宗派である真言宗智山派の法式により三礼・三帰礼文・普回向などが行われた。また、交通遺児援護金が今般も寄贈され上田清司知事からの感謝状が贈られた。

講演の部では落語家であり医師でもある立川らく朝さんを迎



え「ヘルシートーク&健康落語」と題して一時間余の独演会を行った。立川らく朝さんは、表参道福澤クリニック院長として内科診療にあたる現役の医師である一方、立川談志に認められたプロの落語家でもある。医師である経験を生かし、健康教育と落語をミックスした新ジャンルを開拓し、今やテレビやラジオの出演など評判の噺家である。来場者は健康情報と笑いを交えた講演に大いに頷き、大いに笑い身体も心も健康になったようである。東京から参加した女性も、毎年参加しているいろいろな話を聴くことができると楽しいと語る。

開催にあたっては、平素より
会員寺院と親交のある業社や寺
族など50余名がスタッフとして
参加する。協賛業社の中には御
宝前の供花、来場者のお茶、記
念品の絵馬などを奉納する企業
もある。

東松山・滑川仏教会は平成26
年度に新たに3カ寺が加盟した。
当日には会員寺院47カ寺全ての
寺院名が入った記念の絵馬が配
られた。

(報告・東松山滑川仏教会 村井惇匡)

「成道会記念 川越仏教講座」

川越市佛教会

平成26年12月6日(土)、川越
市連雀町・蓮馨寺(浄土宗)を
会処に、川越市佛教会(米山知
行会長)「成道会記念 川越仏
教講座」を開催いたしました。
当日は肌寒い中ではございまし
ましたが、70名近い方々にご参加を



いただくことができました。

午後1時30分より、先ず「成
道会法要」を会処の蓮馨寺・糸
原恒久住職御導師により、川越
市佛教会加盟寺院の宗派を超え
た御随喜をいただきながら厳修
いたしました。

引き続き記念講演として、真
宗大谷派の宗門立大学である大
谷大学(京都市)副学長・木越
康先生より「懺悔の仏道」親
鸞聖人と仏教」との講題にて、
ご講演をいただきました。木越
先生は、「宗教離れ」という課
題を切り口に、丁寧にかつユー

モアを交えながら、仏教の基本
につき「慈・悲・喜・捨の実
践」という視点からお話下さい
ました。そしてさらに、「慈・
悲・喜・捨」を実践しようとす
ればするほど、そのことが実践
できない自身への「痛み・悲し
み」の上に成り立つ仏教として、
法然上人・親鸞聖人が明らかに
された仏道について簡明にご教
示下さいました。また先生には、
講義後の質疑応答にもご丁寧
にお答えいただき、聴衆一同、深
く感謝しつつ講演を終えること
となりました。

最後になりましたが、お忙し
い中、ご遠方よりお越しいただ
きご講演下さった木越先生、ま
たこの川越仏教講座開催にあた
り格別なるご尽力を賜りました
多くのご支援者の皆様に深く感
謝申し上げます、ここに本年も
盛会のうちに仏教講座が円成い
たしましたことをご報告申し上
げます。

(報告・川越市佛教会事務局)

トピックス

「埼玉宗連」研修旅行 「埼玉県宗教連盟」

平成26年8月28日(木)〜29
日(金)、『平成26年度・「埼玉宗
連」研修旅行』(飯野敏明理事
長)が実施された(立正佼成会
担当)。参加者は44名で、本会
からは5名が参加した。

初日は、新宿駅西口に集合。
一行は先ず、中野区にある立正
佼成会本部を訪問した。聖堂内
では、滝瀬恵一副理事長から佼
成会の概要が説明された。ご本
尊の久遠実成大恩教主釈迦牟尼
世尊が安置されている大聖堂は、
昭和39年に落成し今年で建立50
周年の節目を迎えたとのこと。
大聖堂の中央最上部にはイン
ドのブッダガヤにあるマハーボ
ダイ寺院を模した大尖塔がそび
え、周囲には仏教の教え「八正
道」を表している8本の尖塔が



で十分お腹いっぱいになるほど。学生からサラリーマンと顔ぶれも幅広く、信者以外の利用も可能という事で、一般利用者にも門戸が開かれている。

次は、横浜市鶴見区にある曹洞宗大本山總持寺を参拝。当会から参加された評議員の角山祥隆先生（熊谷市・保安寺）のご配慮で、今年の3月に總持寺へ上山された修行僧による説明付きで広大な伽藍を拝観することができた。元々、總持寺は石川県能登に開創されたが明治31年に火災で大伽藍のほとんどを焼失し、現在の鶴見に御移転。延焼防止の為、広く敷地をとり、建物は余裕を持って建てられ、それぞれが長い廊下で結ばれている。日々の作務で拭き上げら

並んでいる。内部は、全国から集まった信者が一堂に会する事のできる構造になっており、数フロアに分かれている。短いものは3畳、長いものは7畳という1900本超のパイプから構成されるパイプオルガンがあり、日々の宗教儀式で演奏されるとの事。全てが巨大すぎて遠近感が掴めない。昼食は、大聖堂の中にある食堂で食券を片手に、それぞれが自由に昼食を摂った。カツカレー、ハヤシライス、ラーメンにサンドイッチとメニューも豊富で、どれもワンコイン



れた百間廊下はワックスでも塗ったかのようにぴかぴか光沢を放っていて印象的だった。夜は屋形船で京浜工業地帯と横浜臨海エリアの夜景を楽しみながらの懇親会。屋形船の船長が水揚げしたという新鮮な魚介料理に舌鼓を打ち、参加者同士の親睦を図った。

翌日は、横須賀軍港めぐりと三崎港での昼食。軍港めぐりはクルーズ船に乗り、案内人によるユニークな説明：「あのイージス艦は一隻1500億円で、分かり易く言うと私の年収くらいです！」とちよくちよく盛り

込まれたユーモアに船内は笑いの渦。間近に海上自衛隊の潜水艦や護衛艦、米海軍のイージス艦を眺めた。下船後は割烹旅館でマグロを中心とした献立を愉しんだ。この日の目玉は焼きたてホヤホヤの巨大なかぶと焼き。それをお店の人が余す事無く捌いて配膳してくれる。脂が乗り、部位によってはプルンプルン。カラーゲン効果で「今、3本シワのある人は2本に。2本の人は1本に。1本の人はそのまま！」という冗談に更に和やかになった。食後は、自由にショッピングを楽しんだ。

（事務局・小池）



第40回研修会

「埼玉同宗連」

平成26年10月10日(金)、「埼玉同宗連」第40回研修会が埼玉佛学会館を会場にして開催された。参加者は各教宗派から約80名。開会行事では副議長の倉持光恭師が開会宣言をし、議長の前高賢光師が主催者あいさつをした。続いて「解放同盟」書記長の小野寺一規氏が来賓あいさつを行い、研修会で放映される映画『SAYAMA見えない手錠をはずすまで』についての説明をした。

映画は、狭山事件の石川一雄さんの日常生活を追ったドキュメンタリータッチの内容。石川一雄さんは被差別部落出身ということで見込捜査により、別件で逮捕されて、自白を強いられた。狭山事件の犯人として裁判所から死刑判決を受けた。以後仮釈放の身となり、現在再審を求め



係争中。半世紀以上も殺人犯というレッテルを貼られたままの生活を強いられているもの、早智子夫人の支えと共に「無罪」を勝ち取るまで、あきらめる事なく一歩ずつ人生を歩む姿に感動を覚えた。

上映後、小野寺氏から現在の情勢について説明があり、現在開示請求中の証拠の中にはプライバシーを理由に開示されないものや検察側に不利な物もあるとされる。新証拠の開示により無実が公になる事を期待すると同時に来年以降大きな進展があるだろうと話を結んだ。

終わりに副議長の牧野大俊師が閉会あいさつを行い、研修会は終了した。

第12回人権政策フォーラム 第15回知事要請行動

平成26年10月24日(金)、部落解放・人権政策確立要求埼玉県実行委員会ならびに埼玉人権・同和センターが主催で「第12回人権政策フォーラム」がときわ会館で、また「第15回知事・議会議長要請行動」が県知事公館ほかで実施された。今年度は本会の萩野映明会長が実行委員会



の会長を務めており、開会行事中、主催者あいさつを行った。一連の開会行事のあと要請団として送り出され、萩野会長は公館へ赴き、上田清司県知事と県議会議長の長峰宏芳氏へ埼玉県の人権政策に関する要望書を提出した。

ときわ会館では、引き続き「第12回人権政策フォーラム」が催され、日本理化学工業の大山泰弘氏が「知的障がい者に導かれた企業経営から皆働社会実現への提言」と題して講演を行った。日本理化学工業は川崎市にある

従業員81名のチョーク製造企業。禅宗のお坊さんの話を聞いたことが障がい者を多数雇用するきっかけになったという。現在59名の知的障がい者を雇用。障がいのある社員が、まず今ある能力で仕事ができるように、そして、より能力を高めていけるように、作業方法の工夫・改善をおこない、皆働環境作りに努めているとのこと。講演のあと要請団報告が寄居町長からなされ閉会。本会からは、深谷雅良専務理事、金子嘉広事務局長、本間照康主事補が参加した。

狭山事件の再審を求める市民集会

10月31日（金）、日比谷野外音楽堂で行われた狭山事件の再審を求める市民集会「不当有罪判決から40年！ いまこそ事実調べ・再審再開を！」に参加。集會に先立つて埼玉県の独自



集會が行われ、「埼玉同宗連」の備前島賢光議長らがあいさつをした。集會には全国から数千人の支援者が集まり、ミニコンサート、主催者あいさつ、各政党あいさつ、再審請求人の石川一雄さん・早智子夫人によるアピール、弁護団報告、基調提案、連帯アピール、市民の会アピールなど約2時間半の集會が行われた。続いて、日比谷公園西幸門―内幸町―数寄屋橋―東京駅八重洲口前―常盤橋公園まで再審を求めるデモ行進を行った。

（事務局・永堀）

「解放同盟」

第34回埼玉県研究集會

平成26年11月28日（金）、クレアこうのす（鴻巣市文化センター）にて第34回部落解放埼玉県研究集會が「世界の人々と共に人権運動の輪を広げ平和と人権の21世紀を創造しよう」を集會テーマに開催された。「埼玉同宗連」から83名（本会からは8名）が参加し、全体の参加者は1000名を越えた。基調報告では「日本における人権の現状と課題」が提起され、日本の差別の現状とその背景にある格差・貧困の問題や戸籍取得の本人通知制度・人権侵害救済法・狭山事件再審開始といった今後の課題が説明された。

続くパネルディスカッションは「国際社会と人権―浦和レッズ差別横断幕事件とヘイトスピーチをどう考えるか―」と題し、片岡明幸県連執行委員長をコー

ディネーターとして、中沢けい氏（法政大学文学部教授・作家）、原由利子氏（反差別国際運動日本委員会事務局長）、大橋光幸氏（部落解放同盟員・元韓国籍）の3名がパネラーとして討論した。

午後は6つの分科会に分かれ、第2分科会の「地域・団体の人権啓発活動」では、高野山真言宗・「埼玉同宗連」議長の備前島賢光師から「宗教教団の人権啓発活動」が報告された。



埼玉講話 第十四回

「一寸先は光」

一般財団法人埼玉県佛教会評議員

清浄寺 (吉川市・本願)

住職 藤井 壽雄

作家で雑誌「酒」の編集長であつた佐々木久子さんが生前、あるところで講演をされるという記事が新聞に載っていました。佐々木さんは広島県の出身で熱心な仏教者でありました。

さて、その講演会での佐々木さんの講題は『一寸先は光』です。「一寸先は」と言うと普通は「闇」です。人生の中で予期せぬ悪い事に出遭つた時など「この世は本当に一寸先は闇だなあ」と言います。しかし、佐々木さんはそれとはまったく逆の『光』という言葉を使っています。

今から約二千五百年前、インドにお生まれになつたお釈迦様は悟りを開かれた後、この世はどのような世界かということをも四つの言葉で顕しました。その第一番目が『諸行無常』です。諸行無常とはこの世のすべての存在は止まることなく常に変化しているという意味です。すなわち、永遠に変化しないものなど一つもない。それは「物」は勿論、人の「心」もまた縁が働けばどのようにでも変わる。私の生命さえも、いつ、どのようになつていくか誰も分かりません。ですから、突然悪い事に遭つた時は、まさに「一寸先は闇」であります。

その闇を打ち消すというか、闇が闇でなくなるというか、その闇を照らす仏様の慈悲の光があつたのだということ。阿弥陀仏という仏様は誰もが平等に、一人残らず仏様の世界に生まれ、仏(すべての悩みと苦しみから解き放たれ、心安らかな幸せな身)となる教えを顕かにされました。仏様は『どのようなことがあつても、決してあなたを見捨てることはありません。あなたが本当の幸せな身となるまで、私はあなたを見つめ、あなたを励まし、あなたの人生を照らし続けます』と誓われ『安心せよ任せよ』と呼び続けておられます。そのことを、お釈迦様は私達に教えてくださいました。

私達は仏様の慈悲の光に照らされていたのです。光に出会うという事は、光を失わない人生が恵まれるのです。たとえば、こんなに苦しく、つらく、涙を流すようなことがあつても「仏様に照らされ、見守られている私」と気付く時に「どんな困難をも一つ一つ乗り越えて行こう」という力強い生き方が生まれてきます。

私達にとつて、まさに「一寸先は光」。光の中を生きるのです。

※この記事は、「さいたまグラフ」平成26年1月号に掲載されました。

訂正とお詫び

・1999ならびに2000号の修正とお詫び

▼1999号8頁

▼2000号4頁

寄居町の人口表記に誤りがありました。

×1万7千人

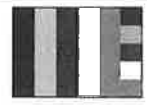
←

○3万7千人

関係各位には、大変ご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。深くお詫び申し上げます。



ZENBUTSU
全仏だより



領収証の扱いについて

領収証とは

領収証は帳簿作成の根拠となる大切な書類の一つです。金銭を受け取ったことを証明するために発行する書類で、何の目的でいくら使った（あるいは支払った）ということの証です。また、領収書、受領書も同じです。

◆宛名が「上様」……大丈夫？

領収証の宛名の書き方は特に決まりがあるわけではありませんが、「上様」は領収証として好ましいものではありません。私的な支出なのか、公的な支出なのか判断がしづらく、税務調査などで疑義が生じやすくなります。

◆ちがう宛名……自分で訂正できる？

立替払いなどで、宛名が異なっている領収証を受け取った場合、自分の判断で宛名を直さないで、違う宛名になってしまった状況をメモして、領収証に添付するようにして下さい。

◆レシートで代用できる？

レシートには宛名欄がありませんが、少額なもの（数千円程度）であれば大丈夫でしょう。

◆領収証に詳細をメモする

接待などの経費が発生したときは、領収証の裏でも構いませんので、接待などの目的、相手先、人数などをメモしておきましょう。後になってこの経費は、交際費だったのか、会議費だったのか、支出項目の判断に役立ちます。

◆領収証がない

電車やバスなどを利用した時に、領収証がでないケースがあります。実際にかかった金額をしっかりとメモしておいて、寺院に戻ってから出金伝票等に、行き先とかかった金額を記入するなど、交通費の清算をおこなって下さい。

前号の「全仏だより」でもご紹介しましたが、出張旅費規程を導入することもご一考下さい。各ご宗派の宗制を参考にして作成されるとよいと思います。

出張旅費規程を作成することにより、法人から支出される金額の根拠が明確になり、事務処理の軽減にも繋がります。それと日当は全額費用となります。受け取った個人としては雑所得となりますが、源泉徴収の対象ではありません。ただし、日当は職務に対する報酬ではなく、職務を行うにあたって生じた損害の一部を補てんするものですから、その金額は、社会通念上合理的な金額かつ同規模・同業種と比べて相当でなければなりません。

また慶用に関して、檀信徒や信徒の結婚式やご葬儀のときに領収証がでない場合があります。結婚式でしたら案内状、ご葬儀であれば会葬御礼状が領収証の代用になります。

本会顧問弁護士 長谷川正浩 監修



公益財団法人
全日本仏教会
WFB (世界仏教徒連盟) 日本センター

〒105-0011
東京都港区芝公園4-7-4 明照会館2F
電話 03-3437-9275 FAX 03-3437-3260
http://www.jbf.ne.jp/
E-mail: info@jbf.ne.jp

埼玉県佛教青年会 40周年記念大会

基調講演

お坊さんのための 「仏教入門」

参加
無料

青年僧侶に期待を寄せる宗教学者 正木晃先生からの応援メッセージ。今の時代だからこそお坊さんに聞いてほしい。葬儀のこと、寺院経営のこと、お坊さんとしてのあり方。いま埼玉で仏教が加速する！



講師 正木 晃 まさき あきら

1953年、神奈川県生まれ。筑波大学大学院博士課程修了。国際日本文化研究センター客員助教授、中京女子大学助教授などを経て、現在は慶應義塾大学文学部・立正大学仏教学部非常勤講師。専門領域は宗教学。日本とチベットの仏教や修験道を中心に、修行における心身の変容、宗教図像学などを研究。また仏教の智慧を現代に再生し利用する各種の企画を立案し実践する。NHKテレビ「心の仏像」シリーズや日曜美術館、同ラジオ「心の時代」などの番組にも出演。著書に、『チベット仏教図像研究—ベンコルチューデ仏塔』（国立民族学博物館）、『増補チベット密教』・『密教』（筑摩書房）、『はじめての宗教学—風の谷のナウシカを読み解く』・『千と千尋のスピリチュアルな世界』・『マンダラ塗り絵』シリーズ（春秋社）、『マンダラとは何か』・『宗像大社—古代祭司の原風景』（NHK出版）・『現代の修験道』（中央公論新社）、『図説 密教の世界』（河出書房新社）『空海と密教美術』（角川学芸出版）、『お坊さんのための仏教入門』・『お坊さんなら知っておきたい「説法入門」』・『あなたの知らない「仏教」入門』（春秋社）、『法華経』って、そういうことだったんだ。（三一書房）など多数。

記念対談

正木 晃・田中 利典・葛西 好雄



田中 利典 たなかりてん

1955年京都府生まれ。山伏をしていた父親のもと、幼いころから修験としての実地経験に恵まれて育つ。龍谷大学文学部仏教科卒業、叡山学院専修科卒業、金峯山寺教学部長を経て、2001年金峯山修験本宗宗務総長、金峯山寺執行長に就任。主要論著に『修験道っておもしろい!』、『吉野薫風抄—修験道に想う』、『はじめての修験道』、『熊野 神と仏』他がある。



葛西 好雄 かさいこうゆう

1965年東京生まれ。駒澤大学大学院人文科学研究科博士課程満期退学。曹洞宗大本山永平寺で修行。永見寺住職。『西有穆山禪師提唱 永平家訓私記』、『坐禅用心記啓迪』の編集のほか、執筆論文がある。

開催日程 平成 27年 9月 30日 (水)

【会場】浦和ワシントンホテル
3F プリムローズ

【開場】13:00

【開演】13:30

○基調講演 13:30~14:30

○記念対談 14:30~15:30

【参加費】無料

【主催】埼玉県佛教青年会

【後援】一般財団法人 埼玉県佛教会

●お問い合わせ

TEL: 048-861-2138

メール: syoko@saibutu.net



浦和ワシントンホテル
〒330-0069 埼玉県さいたま市浦和区高砂2-1-19
TEL 048-825-4001 FAX 048-825-4002
JR 浦和駅西口より徒歩3分
ホテル地下1階立体駐車場のご案内(71台収容)
制限: 全長505m 全幅106m 高さ155m

<p>(一財)埼玉県佛教会 副会長 真言宗豊山派 持明院住職</p> <p>木村 盛雄</p> <p>〒359-0038 所沢市北秋津八五 電話 ○四一二九九二一四四六</p>	<p>「お十夜」の寺 浄土宗</p> <p>勝 願 寺</p> <p>住職 藤田 得三</p> <p>〒三六五〇〇三八 鴻巣市本町八一三三 電話 ○四八(五四二)〇二七七</p>	<p>(一財)埼玉県佛教会 会長 曹洞宗 能仁寺 住職</p> <p>萩野 映明</p> <p>〒357-0063 飯能市飯能一三二二九 電話 ○四二一九七三二四二二八 FAX ○四二一九七四一五三四六</p> <p>http://noninji.com</p>	<p>謹賀新年</p> <p>本年もよろしく お願い申し上げます</p>  <p>合掌</p>
<p>(二財)埼玉県佛教会 常務理事 (城立寺住職)</p> <p>加藤 玄静</p>	<p>(一財)埼玉県佛教会 常務理事 日蓮宗 妙福寺</p> <p>住職 穂山 教雄</p> <p>〒346-0115 久喜市高蒲町小林三三八九 電話 ○四八〇一八五一四一三三</p>	<p>(二財)埼玉県佛教会 専務理事 水光山大應寺 住職</p> <p>深谷 雅良</p> <p>〒354-0011 埼玉県富士見市水子一七六五 TEL ○四九一五二一五六一一 FAX ○四九一五二一五六〇一</p>	<p>(二財)埼玉県佛教会 副会長 真言宗智山派 三学院住職</p> <p>倉持 秀裕</p> <p>〒335-0001 蕨市北町3-2-4 電話 048-443-2125 FAX 048-443-2544</p>
 <p>一般財団法人埼玉県佛教会 理事 曹洞宗 金澤寺 住職</p> <p>宮寺 守正</p> <p>〒350-0305 比企郡鳩山町泉井一三七六 電話 ○四九(二九六)三七一三</p>	<p>(一財)埼玉県佛教会理事 真宗大谷派了善寺</p> <p>住職 嵩 海雄</p> <p>〒355-0036 東松山市下野本一〇七六 TEL ○四九三二二一七三九 FAX ○四九三二二一九三五二</p>	<p>天台宗 東泉寺 住職 天台宗 埼玉教区議会 議長 (二財)埼玉県佛教会 理事</p> <p>河野 亮玄</p> <p>〒330-0044 さいたま市浦和区瀬ヶ崎二一五一一 TEL ○四八二八六一五一一四 FAX ○四八二八六一四一五一 HP http://www.urawa-tosenji.com/</p>	<p>(二財)埼玉県佛教会 常務理事 浄土宗議会議員 蓮馨寺 住職</p> <p>糸原 恒久</p> <p>〒350-0066 川越市連雀町七一 TEL ○四九一三二一〇〇四三</p>
<p>(一財)埼玉県佛教会評議員 小江戸川越七福神(弁財天)</p> <p>沼田 正順</p> <p>日蓮宗 妙昌寺 住職</p> <p>川越市三光町一九 電話 ○四九(一三二)二四一四</p>	<p>坂東十二番札所 玄奘三蔵法師靈骨奉安</p> <p>華林山 慈恩寺</p> <p>住職 大嶋 法道</p> <p>〒339-0009 さいたま市岩槻区慈恩寺一三九</p>	<p>〒三三〇〇〇五一 さいたま市浦和区本太一四二一一</p> <p>天台宗 延命寺</p> <p>住職 河野 亮仙</p> <p>電話 ○四八(八八二)六三九〇 FAX ○四八(八八五)三六六六</p> <p>http://www.enmeiji.com</p>	<p>一般財団法人埼玉県佛教会 理事 天台宗 慶福寺 住職</p> <p>関口 亮樹</p> <p>〒349-0115 蓮田市蓮田四一〇四 電話 ○四八(七六八)一五三七 FAX ○四八(七六八)二二二八</p>

**埼玉県佛教保育協会
第30回埼玉県佛教幼児画展**

※入場自由

《日時》

平成27年1月31日(土) 13時～17時
2月1日(日) 10時～16時

《場所》

さいたま市文化センター
[南区根岸1-7-1]



平成二十六年
受章おめでとうございます

《春》

瑞寶雙光章 石田 祐寛 師
(本庄市・円心寺 行政相談功勞)

瑞寶雙光章 濱野 龍生 師

(越谷市・照蓮院 更生保護功勞)

《秋》

藍綬褒章 吉田 秀宝 師
(春日部市・寶性院 更生保護功勞)

第7回埼佛仏教文化講座

入場無料・要申込

とき **平成27年2月17日(火)** 開場 午後2時、開会 午後2時30分、閉会 午後4時(予定)

ところ 埼佛会館 [さいたま市浦和区高砂4-13-18]

講演 **事件の裏に印あり**

—世の失敗者は捺印して悲劇が始まる—

講師 **おおた せいぶん 先生** 日本印相学会会長、六世花押印相学宗家
元 産経新聞社会部・政治部記者

著書 「印相の吉凶の解説」(日本教育新聞社刊行 ※現在絶版)

■お申込方法

県佛事務局まで「文化講座申込み」と一言添えてお電話ください。

その際お名前、ご連絡先、参加人数をお知らせください。

越谷市佛教会

会長 佐々木 純一
副会長 中里 静博
副会長 樋口 円准

川口仏教会

会長 江連 俊裕
役員一同
〒332-0012 川口市本町二丁目三十七
錫杖寺
電話 ○四八―三三―二〇四六

真言宗豊山派
観照院

〒343-0851 越谷市七左町七―二七八
TEL ○四八―九六―二五六九五
FAX ○四八―九六―二五六九六
住職 鷺津 憲道



親鸞聖人旧跡
浄土真宗本願寺派

楠井山 **清浄寺**

住職 藤井 壽雄
〒342-0045 埼玉県吉川市本売二―〇一五
電話 ○四八―九八―一六〇〇〇
FAX ○四八―九八―一六〇八〇
JR武蔵野線「吉川」駅南口三分

討報

お悔やみ申し上げます。

事務局日誌

平成26年10月

31日▼「解放同盟」狭山市民集会
(日比谷野外音楽堂／本間主事補、永堀)

22日▼埼玉会館全館清掃
26日▼仕事納め

平成26年 10月

1日▼「全仏」広報委員会研修

11月

24日 所沢市東福寺(豊山)

会(大和スカイホール・金子事務局長／本間主事補)

4日▼吉川市仏教会来館

今後の予定

荒泉 盛憲 師(70歳)

元代議員(支部長)

10日▼「埼玉同宗連」第40回研修会(埼玉会館)

6日▼「埼玉青」写仏

13日▼「解放同盟」県連旗びらき(熊谷ガーデンパレス)

11月

6日 熊谷市福聚院(智山)

佐伯 正盛 師(69歳)

17日▼第36回埼玉県佛教徒大会(寄居町中央公民館)

26日▼「埼玉同宗連」埼玉県との事務折衝(本間主事補)

15日▼「埼玉連」新年懇親会(浦和・満寿屋)

11日 加須市普門寺(智山)

小勝 隆三 師(89歳)

元評議員(支部長)

22日▼「全仏」60周年記念事業実行委員会(明照会館／金子事務局長)

28日▼「解放同盟」第34回埼玉県研究集会(クレアこうのす)

23日▼「埼玉同宗連」新年懇親会(浦和・山崎屋)

15日 幸手市祥安寺(曹洞)

田中 雅偉 師(78歳)

12月

27日▼奉詠大会反省会(埼玉会館)

12月

27日▼「埼玉青」執行部会

9日▼世界人権宣言60周年記念

10日 小鹿野町十輪寺(智山)

五十嵐 英弘 師(67歳)

元評議員(支部長)

30日▼「解放同盟」人権政策確立要求中央集会

15日▼平成26年度第1回執行部会

16日▼「埼玉青」写仏／執行部

編集後記

先日、NAHAマラソンを完走。川内優輝選手は余裕の走り。大会新記録の2時間13分を達成。私も自己記録を30分更新するも後日体調不良で撃沈。自己管理の大切さを再認識。皆さまもお気をつけください。(鯉)